

医療最前線

県立中央病院から

〈248〉



梅谷 健
循環器病センター統括部長

の梅谷健医師（循環器内科）は「心不全は原因を突き止め、早期に治療することで進行を遅らせることが可能」と話している。

心不全は心臓の機能が低下した結

高齢化の進行によって増加し続け、心不全患者。山梨県立中央病院は近年登場した治療薬を積極的に導入し、患者の健康寿命延伸に努めている。同院循環器病センター統括部長

果、内臓に水分がたまり、全身に十分な血液を送り出せなくなる状態を指す。初期には自覚症状はないが、つくりと進行し、息切れを感じたり、足にむくみが出たりする。悪化する

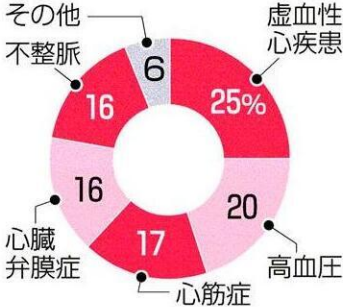
と入退院を繰り返し、健康寿命だけでなく寿命そのものを短くする大きな要因となる。治療の大きな柱となるのが飲み薬で、症状を改善し健康な状態を長く

いずれも既存薬との切り替え・併用で死亡率や心不全による入院率を下げる効果が確認されている。同院でも経験を積んだ専門医が患者の状況を見極めながら新薬を取り入れていて、処方するケースは増加しているという。

むくみ、息切れ起こす心不全

新薬導入 健康寿命延伸

山梨県立中央病院
心不全入院患者の基礎
心疾患の内訳
(2021年度)



保つ目的がある。従来は血圧を下げたり、心不全を悪化させるホルモンを抑えたりする作用がある薬などが利用されていた。

梅谷医師によると、近年、心臓を

心不全の原因は虚血性心疾患や高血圧、心筋症、心臓弁膜症、不整脈とさまざま、まずは心不全を引き起こす原因をしっかりと突き止めることが重要」と梅谷医師。薬物以外の治療も進んでいて、同院は不整脈の一つで脳梗塞の原因にもなる心房細動に対して、カテーテルを用いた手術も実施している。

保護するホルモンを増やす効果が加わった薬が普及。このほか、糖尿病向けに開発され、心不全にも利用できるようになった薬があり、腎臓の負担を減らしながら体内の余分な水分を減らすことができるという。血圧の下げすぎも問題となるが、血圧に影響を与えずに脈拍のみを低下させて心臓を休ませる薬も登場している。

治療の選択肢が広がる中、がんと比べて早期治療に対する一般の認識が低いのが課題という。梅谷医師は「心不全が悪化した場合の予後はがんと全体の平均よりも悪いとするデータがある。症状が出たり、健診で心不全の可能性が疑われたりした場合、は早めの受診を心掛けてほしい」と呼び掛けている。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します